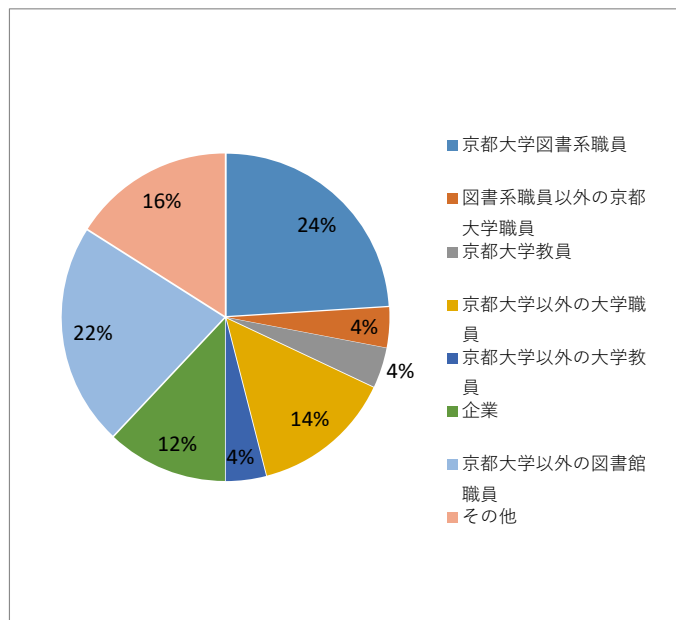


平成29年度 講演会：「デジタルアーカイブの新たな展開と可能性－IIIFの動向と活用例から考える－」  
アンケート結果

講演会実施日：2017年10月18日（水）  
参加総数：73名（学内者：37名、学外者：36名 講師を除く）  
アンケート回答数：50名（回答率：68%）

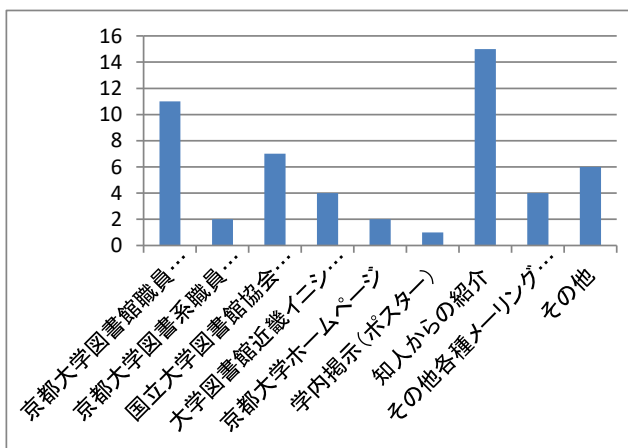
<1.参加者の所属>

a) 京都大学図書系職員	12名
b) 図書系職員以外の京都大学職員	2名
c) 京都大学教員	2名
d) 京都大学以外の大学職員	7名
e) 京都大学以外の大学教員	2名
f) 企業	6名
g) 京都大学以外の図書館職員	11名
h) その他	8名



<2.本講演会を知った情報源（複数回答可）>

a) 京都大学図書館職員メーリングリスト(Staff-ML)	11名
b) 京都大学図書系職員研修ページ	2名
c) 国立大学図書館協会参加館への案内	7名
d) 大学図書館近畿イニシアティブ参加館への案内	4名
e) 京都大学ホームページ	2名
f) 学内掲示(ポスター)	1名
g) 知人からの紹介	15名
h) その他各種メーリングリスト	4名
i) その他	6名



\* その他各種メーリングリストの内訳(デジタルアーカイブ学会・部局職員ML(図書系以外の京大職員))

\* その他の内訳(デジタルアーカイブ学会HP・Twitter・大学職員より(京都大学以外の大学教員))

<3.講演に対する意見・内容>

基調講演「Introduction to IIIF: Unlocking the World's Digital Images = IIIF入門:世界中のデジタルイメージを解き放つ」

IIIFで何ができるのかがダイジェスト的にわかった。絵に関してX線等やスケッチ～完成まで等が面白かったです。
ばらばらになった所蔵を復元できるということは素晴らしいことだと思います。
入門的な概要を聞くことができIIIFの基本を理解できた。(他3名)
全般的な取り組みが紹介されわかりやすかった。
新しい機能等がわかり、役に立ちました。
コミュニティによって、IIIFが広がっていることを実感しました。
昨日に続き2回目の拝聴。ポイントがよくわかるようになりました。
豊富な画像とわかりやすい説明のPPTがよかったです。
交替での説明で英語を追うのが大変でした。基本をよくまとめられていました。
海外の状況について生の声をきくことができ大変貴重な機会となりました。ありがとうございます。やはり日本が遅れているのか・・・
史料の公開を所属機関で検討しているので、本日のご講演は非常に参考になりました。
バチカンで行われたシンポとほぼ同じ内容でしたが、2回目により理解ができた。
これ程革新的なものが出ていたとは知りませんでした。
IIIFの基本的な事が良くわかった。UV又はMiradorを使用できそう。(他2名)
概説として基礎的知識を得るのに役立った。通訳がもう少しスムーズに細かくして頂けるともっとわかりやすかったかもしれません。
デジタル化、公開、その先(活用)がまだ課題が多いと感じた。他サイトとの比較、注釈が面白かったです。
IIIFの目指すところがよくわかり、とてもおもしろかった。
IIIFについて、デモも含め非常にわかりやすくご説明頂いた。(他1名)
画像の比較や利用が今までいかに困難で、今回それがIIIFによって、いかに簡易化するかがわかりました。
IIIFが世界的にも大きな可能性を秘めていることを実感しました。
とある研究会に参加した時に、IIIFという単語を初めて知り、興味を持ったのですが、オープンに使われるようになれば良いなと思いました。附属組織ごとによるのでしょうか、けっこうクローズドですね、日本。

講演1「日本におけるIIIFの受容状況と今後の可能性」

<p>目録作成の為、同じ書名の版本の比較するのがやりやすくなるのが、具体的な説明でわかりやすかったです。</p>
<p>個人的にIIIFを活用して発信できそうなことを先生のご紹介により思いつき楽しみです。ありがとうございます。</p>
<p>IIIFでできることや今後の可能性について、デモを交えてご説明くださったので、大変わかりやすかったです。（他10名</p>
<p>勉強になりました。</p>
<p>最新情報を含めて日本のIIIFの状況をわかりやすく説明していただきたいへん有意義であった。</p>
<p>デモを拝見して人文系の貴重書を使って研究する人間にとって、IIIFはたいへんな助けになると実感できました。</p>
<p>豊富な事例で様々な可能性が感じられた。大変参考になりました。ありがとうございます。（他2名）</p>
<p>いつもながら極めて勉強になった。</p>
<p>非常に参考になった。企業の例のサンプル紹介もあるとなおよかった。</p>
<p>今回の中で最もわかりやすく、事例についてもよく理解できた。</p>
<p>IIIFの使い方がわかった。</p>
<p>日本でもIIIFが進みつつある事がわかりました。</p>
<p>技術的なことについてもお話をうかがいたかった。</p>
<p>具体的な事例を実際に見せて頂けて、ぼんやりしてたイメージが具体的になりました。</p>
<p>日本において思った以上にIIIFの実装できる環境がととのっていておどろきました。</p>
<p>アーキビストやライブラリアンにとってIIIFがどのような意味合いを持つのか理解できてよかったです。IIIFには様々な機能があるけれど、それもアーキビストやライブラリアンの立場からいかに利用していくかということが大切なのだと理解しました。</p>
<p>国会図書館の資料などを使いながら、様々な技術について紹介して頂き、大変分かりやすかったです。</p>
<p>資料を利活用していくという点においてIIIFはその可能性を大きく広げてくれるものだと感じた。資料をデジタル化することの意義を改めて理解することができた。</p>
<p>本当に最近の話題まで含め、特に資料を所蔵・公開する立場にたって分かりやすく解説していただけた。</p>
<p>分かりやすかった。仮想コレクション試してみたいです。</p>

講演2「失われた時のウェブを目指して」

違う角度から意識的記録と無意識的記録についてのお話でしたが大変面白かったです。
歴史学者からの意見ということで、今後IIIFに関しては各分野の研究者からの意見も参考にすることも考えられる。
どれだけ解放マインドになれるか
研究者の視点からのご指摘、大変身になりました…
研究者の目でアーカイヴを見る目、「記憶」と「記録」の話はおもしろかった。
研究者の立場からのお話で、非常に興味深かった。一次資料の画像に研究上大きな価値があると分かった。
歴史家の先生ならではの視点で「無意識的記録」というのは一つの重要な指針になると感じました。（他1名）
デジタルアーカイブの本質的なところ、先進的なところについて知ることができました。
無意識にとらえていた「意識的記録」「無意識的記録」を厘屈として分類されることに、なるほど、と思いました。
無意識記録の大切さや、研究上の情報発見の大切さについて、経験に基づく説得力のある講演で、新たな視点を知ることができ勉強になった。
本日のテーマからは微妙な内容と思って聞いていたら後半に「みんなで翻刻」が出て安心しました。でもとても面白いお話ぶりでした！
京大在学時の講義の雰囲気思い出しました。
ヒストリアンからのIIIFへの展望についてはなるほどと感じました。ありがとうございます。
とりわけ日本の閉鎖性（図書資料の）に完全に同意。私もずっと「私蔵（秘蔵）は死蔵なり」と主張してきた。
非常におもしろかったです。林先生のお話をもっと聞きたいと思いました。
難しい内容。
IIIFが研究に役立つ事がよくわかりました。
「無意識的記録」のお話しが、デジタルアーカイブの件を越えておもしろかった。
図書館以外の立場（歴史家）からIIIFに期待することがのべられ面白かった。
失われた時をデジタル化することで何かしらの（デジタル化した主体の）無意識的な記録も生まれるのかもしれない。
無意識の記録の話はおもしろかったです。
大学の講義のようで、純粋に興味深く面白いお話でした。
ヒストリアンの言われる「無意識な記録」という意味がわかったような気がしました。
デジタル人文学の実際について具体的なお話を聞くことができた
書誌情報として網羅していくだけでなく、アノテーション機能によって探索性が大きく向上するのではないかと…というように、探索性を向上する方法を意識的記録と無意識的記録とで分けて捉える考え方がとても面白かったです。
歴史学（人文学）の視点からのお話がとても興味深かったです。
資料を公開、ウェブ上で検索できるということを通して目指すべきものを知ることができたと思う。
一番面白かったです。一次資料の発見が歴史学にとって大事と言っていたとある指導教官に物申したい。

事例報告「京都大学貴重資料デジタルアーカイブの紹介と今後の展望」

講演1ではおなしされてた資料比較を実例を示して頂けてよくわかりました。ありがとうございました。
事業の過去から展望までよく理解できた。(他2名)
どうやってIIIFを導入したかも聞きたかったですが、講義時間が短く残念でした。
京都大学のIIIFの取り組みと将来の課題について知ることができました。ありがとうございました。
こちらも2回目。京大図書館のIIIF参加、素晴らしい!!
現在できていること、今進めている作業をわかりやすく説明いただいたので、理解がスムーズにできました。(他1名)
大学図書館の貴重資料データベースでの具体的なIIIF導入事例として参考になりました。ありがとうございました。
先日、引原先生からも話を聞いていたのでより分かりやすかった。
サイト構築等で参考に出来、ありがたい。
一度拝見したいと思います。アクセスログが正しく把握できないのは課題ですね。
一般に多く公開していただけることを期待しています。
システムの仕組や実務的な面がわかり参考になりました。(他3名)
アクセスログの解析について、今後にも期待しています。
前のめりな貴学のとりくみの一端をうかがえて興味深かったです。
基調報告で紹介されていたUniversal viewerやMiradorでどのように資料を見れるのか分かりよかったです。使ってみたいと思いました。
京都大学で実際にどのような取り組みが行われているのか知ることができて、私もまた活用させて頂きたいと思いました。
京都大学での貴重資料デジタルアーカイブについて詳しく知ることができとても参考になった。
どういうプロトコル(手順)で行っているのか具体的に知りたかった。デジタルアーカイブの勉強中なので、ボランティアとか募集してますよ、という情報が欲しかったかも。

#### <4.印象に残った一言>

基調講演「Introduction to IIIF: Unlocking the World's Digital Images = IIIF入門:世界中のデジタルイメージを解き放つ」

cite share, leaflet-IIIF
画像、テキスト、動画 何でも扱える!
Every site a silo → no interoperability
バラバラに所蔵されている断簡と元資料を、同じ画面上に表示・再現できる。(他1名)
slackで#JAPANを作りました!参加しましょう!
Image Delivery API
切りとり、比較
Deep zoom (何回も登場しましたが、単なる高精細ではなく、利活用を見越した一歩先、という印象でした。)
アノテーションの入れ子ができる
2m×5mの地図でも、IIIFによってスムーズに表示できる

講演1「日本におけるIIIFの受容状況と今後の可能性」

Omeka (他1名)
より容易な、より簡単な「つなぐ」機能
「多様な知を産み出す肥沃な土壌としてのIIIF」
デジタルアーカイブに求められる機能が、IIIFによってかなり実現された。
企業への発注も可能になっている
「専門家でも、好事家でも、学習者でも、様々なコンテンツをつないで、自分なりの文脈を発見」
IIIF Tool Kitのこと、IIIF Curation Viewerのこと
フルオープンでなくてもよい
東大と宮内庁の貴重書を、隣に並べて閲覧できるようになった、
技術的にはこれまでもできたが皆バラバラだった。IIIFという新しい規格に乗ったら一気に進んだ!
デジタルアーカイブが目指すことを実現できる重要なものとしてのIIIF
みんなで作る地図・年表
高精度画像
規格に従うことで特別な(ビューワーの)開発が不要になる(他1名)
多様な知を産み出す
アノテーションから検索
様々なコンテンツをつなぐ機能
公開する側にとってサーバに負荷がかからず横長の画像を表示できる。

講演2「失われた時のウェブを目指して」

情報と情報の間の障壁をなくすこと
全てが画像で入手することができる（デジカメの出現）（他1名）
無意識的記録を検索できるオープンで柔軟な検索技術
どれだけ開放するマインドになるか。（他2名）
資料を市民に開いていく必要性について
資料のオープンマインドをもたせることが、いかに困難か…
あらゆる情報と情報の間の障壁を下げること
田辺元の書き込みそのものは著作権切れただ、公開する方法が難しい。
無意識的記録（他3名）
クラウドソーシング翻刻、歴史学が人命をすくう
歴史学ほど現実的な学問はない。
デジタル画像のコストはほぼ0（ゼロ）、奇跡でもなくなる（ウェブ公開することで）
画像革命
大発見はそこらに転がってる資料からみつかったりする
日本の閉鎖的なマインドを変えていく必要がある（他1名）
誰も知っているような資料も持っている本当の意味を明らかにしていくこと

事例報告「京都大学貴重資料デジタルアーカイブの紹介と今後の展望」

IIIFのアクセスログの解析
アノテーションの充実とログ解析が課題
翻刻等のアノテーションが充実することを期待（他1名）
Miradorでの資料比較
オープンアクセス
Drupal
資料をオープンにすることで、翻刻などの研究を促進していく。
他の機関の資料と比較することができる

<5.その他、本日の講演会全般について意見等>

IIIFの知識を基本的なところから展望まで知ることができ非常に有意義でした。ありがとうございました。
ありがとうございました
図書系の職員さんの多いところで、仕方がないかもしれませんが、管理の可能性だけでなくもっと、利用者の利便を高めていく可能性についても議論をしていただきたいと思います。
アーカイブズ系の機関においても導入を検討する必要があると思いました。
IIIFの推進に、附属図書館がイニシアティブをとってほしい。
勉強になりました。ありがとうございます！！
京大のIIIFへのいち早い加入、取り組み等に先見の明を感じました。
IIIFの内容が良くわかり、将来的に必要なものと感じ、参考になった。
IIIFの技術的な話が聞きたいです。
IIIFの基本的なところから技術的な話までよくわかりました。
様々な立場からのアプローチがあり、興味深く、参考になりました。
質疑も含め参考になった
IIIFの今後の可能性の大きさがよくわかる講演会でした。
初めてこのような講演に参加させていただいたのですが、デジタルアーカイブに関する最新の技術や現状について話を伺うことができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。
期待した以上に、大変勉強になりました。有難うございました。
通り過ぎりの一般人ですが、通訳のお陰で十分興味（好奇心）が満たされました。ありがとうございます。

<6.今後、講演会でとり上げてほしいテーマ等>

APIについて
電子リソース管理、CAT2020
附属図書館研究開発室の活動、機能・・・
定期的にかつこうしたものをとり上げて行って欲しい。
導入、入門講座的なワークショップ
IIIFの技術的な話が聞きたいです。
デジタルアーカイブの利用を促進するためのとりくみについて、利用状況についての詳細